

第1回 刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和元年7月24日（水）午後2時～3時40分

2. 場所

市役所301会議室

3. 出席者

会長及び委員14名（欠席5名）

事務局13名

4. 議題

（1）刈谷市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

①刈谷市子ども・子育て支援事業計画の概要について

②刈谷市子ども・子育て支援事業計画進捗管理シート（施策全体）について

③刈谷市子ども・子育て支援事業計画進捗管理シート（量の見込みと確保の内容）について

（2）第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画骨子案について

（1）事務局より説明（刈谷市子ども・子育て支援事業計画概要版、資料1-1、資料1-2）

（質 疑）

・ 委 員 無償化になると、保育ニーズが上がってくるのか。そういう状況の中で、教育・保育の施設の数量については、非常にご尽力いただいたと思う。ハード面での対応はされていることはよくわかるが、先生方の負担が増加するなどソフト面での対応はどうか。計画の中ではそのようなポイントについて、数値目標があって計画にもきちんと記載があると非常に安心して子育てできる環境になってくるものと思われる。

・ 事務局 無償化になると、待機児童が増加してくるのかもしれないという声は全国的にもあるが、現在のところメインは3歳以上5歳までの子どもが

対象となる。

現在3歳以上の子どもはほとんど保育園・幼稚園に入園いただいているので、そこで待機児童が増加するということは考えにくい。

公立幼稚園が現在刈谷市に16園あるが、認定こども園へ移行し、保育園なみに長時間の預りをできるような展開を考えている。時間外等の職員の対応については、シフト制にする・人を増やすなど、個々の負担によらないところで考えている。

- ・ 委員長 放課後児童クラブはどうか。
- ・ 事務局 支援員として研修を長期的に実施しており、毎年20人前後を受講できるよう計画している。
人材の確保については、折り込みチラシを入れるなどして、支援員の確保に努めている。刈谷市では児童が30人を超える場合は3名の支援員を配置しており、他の自治体に比べて手厚く対応をしている。
- ・ 委員 保育士等の確保はどのように実施していくのか。
- ・ 事務局 保育士については、大学で直接説明したり、潜在的な保育士が現場に復帰しやすいよう研修会を実際の園で実施しており、少しずつ復帰していただけるよう門戸を広げる取り組みを進めている。
- ・ 委員 外国人の就園については、どのような状況か。
- ・ 事務局 住民票を置いたまま外国に帰られる方もいるので、詳細までの把握は難しい。
- ・ 委員 ブラジル人学校に通われている方も把握はされているか。
- ・ 事務局 住民登録がされていれば把握はできている。

- ・ 委 員 住民登録されていない人については難しいか。
- ・ 事務局 それは難しい。国際交流協会が主催で行っている事業の中で把握している部分はあるかもしれない。

(2) 事務局より次期計画の骨子案について説明した。

(質 疑)

- ・ 委 員 医療的ケア児について触れていただいている部分がある。保健所においても、母親の自己実現であり、地域の中で育っていくという考え方に代わってきているので、保育の質という部分の話もあったが、通常の保育園や小学校にも入っていきたいという希望をもっている親もいる。またそういった親の就労支援についてもケアが必要なのかと思う。
- ・ 委 員 子どもの遊び場の確保は非常によいだけけれども、雨が降った場合の遊び場がない。支援センターについては、未就園児のみが利用ができて、小学生は利用できない。小学生の兄弟がいる場合は連れていくことはできない。大型ショッピングモールでもなかなかいくことができない。支援センターなど、兄弟で連れていくことができるような遊び場があるといいと思う。
- ・ 事務局 支援センターは0～2歳までの子どもが中心なので、その子どもたちと小学生と一緒に遊ぶというのは危険が伴うので、ご遠慮いただいている。児童館は、小学生が利用できる。
- ・ 委 員 実際0～2歳の子どもと6歳の兄弟がいた場合に、一緒に遊べないという声を聞いている。
- ・ 事務局 プラネタリウムについては、月1回お子さんを連れていくことができる。

・委員 子ども関連施設については、年齢で切ってしまうが、非常に重要な視点かと思う。

・委員 地域社会ということで、これからの取組みに期待している。